

『岡山商大論叢』（岡山商科大学）

第56巻第2号 2020年12月

Journal of OKAYAMA SHOKA UNIVERSITY

Vol.56 No.2 December 2020

《論 説》

中国における大学生の進路選択と 就労意識に関する実証分析

渡 邊 憲 二*

朴 慧 淑**

于 飛**

An Empirical Analysis on Career Choice and Awareness of Work of University
Students in China

WATANABE Kenji

PIAO Huishu

YU Fei

1. はじめに

中国では、1999年から大学¹の入学者数が増加している。2018年における大学の入学者は790.9万人に達し、卒業生は753.3万人となっている²。こ

* 岡山商科大学 Okayama Shoka University

** 大連外国語大学 Dalian University of Foreign Language

1 中国では、大学（短大も含む）は「普通本専科」と呼ばれるものの、本稿では「大学」と表記する。

2 中国の学生数に関して、国家统计局HP（中国統計年鑑2019）を参照。

のように、中国では大学の大衆化が顕著となっている。近年では、高等教育機関³の卒業者が大幅に増加した結果、高学歴化による就職難といった問題が発生している。経済成長や産業構造の転換による労働需要は増えているものの、大学生の就業問題はより深刻化している。

中国における大学生の就職や進路選択に関する研究は、1990年代末に「自主的職業選択」⁴が導入された後、アンケート調査や聞き取り調査を中心に進められてきた。これまでの研究は、①進路選択、②就労意識、③大学のキャリア教育に分けることができる。まず、①進路選択に関する研究では、岳ら（2004）は、大学生の就職に対して、学歴や成績といったアカデミックな要因が重要であることを実証している。李（2006）は、ロジット分析から給付奨学金の取得者と地方出身者が大学院進学を志望し、家庭の所得が高いほど留学を選択することを明らかにしている。高（2011）は、就職難であると考える多数の大学生では、大学卒業後の進路選択としては就職よりも進学志向が高いとしている。李（2011）は、インターネットによる企業の採用活動が普及し、大学生の就職活動の早期化と長期化を招いていると指摘している。韓（2016）は、高学歴化に伴う就職環境の悪化を背景に、大学院進学の目的は就職を念頭に置いた進路選択であるとしている。

次に、②就労意識に関する研究では、徐・来島（2006）は「収入と福利」や「将来の見通し」が、中国の大学生が職業選択で重視する項目であるとしている。黒木（2011）では就職意識に焦点をあてたアンケート調査を行い、中国人留学生は仕事で最も大切なことは自分の夢のために働くことであると、職場の選択基準では給料の多さであることを導き出している。また、凤・罗（2012）、黄（2012）、黄ら（2014）の研究では、大学生の職業的価

(<http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/2019/indexch.htm>)

- 3 中国における高等教育機関とは、研究生（博士・碩士）、普通本専科、成人本専科、网络本専科が含まれる。
- 4 中国における就業制度の変遷については、蔣（2017）を参照。なお、従来は各省庁や地方政府が管轄下にある大学の卒業生を管理していたものの、自主的職業選択へ移行されたことにより、各自が自由に職業を選択できるようになった。

価値観は自己成長や社会的責任だけでなく、中国社会の伝統的価値観を重視していることを明らかにしている。また、福澤・王（2015）は、賃金や待遇を就職活動の際に重視される条件として挙げ、就職活動は大学関係（学校・教師）の紹介と個人的な関係（家族や知人）の紹介を頼る場合が多いとしている。井上（2016）は、中国人留学生の就業動機について、因子分析から自己向上や外発的動機などの要因であることを説明している。

そして、③大学のキャリア教育⁵に関する研究では、2011年に大学のカリキュラムに導入が義務化され、その重要性は増している。しかし、九門（2019）が指摘するように、中国におけるキャリア教育の実証研究は非常に限定的である。張（2015）や顧（2017）では、アンケート調査とインタビュー調査から大学生のキャリアプランは曖昧であり、大学生の就労意識が企業のニーズに対応できていないことを指摘している。楊ら（2017）は、低学年からキャリア教育を実施し、就労意識を高め、さらに就職情報を提供していくことが重要であるとしている。九門（2019）や朴ら（2020）は、CRS（職業キャリア・レディネス尺度）を利用したWEB調査を行い、キャリア教育に対する大学生の意欲は高いものの、キャリア教育と大学生の進路選択や潜在的ニーズとの間にギャップが生じていることを明らかにしている。

このように、中国における大学生の就職や進路選択に関する研究は蓄積されてきた。しかしながら、これまでの研究では進路選択におけるキャリア教育の効果は実証されておらず、さらに就労意識を内包した進路選択の検討も行われていない。したがって、本稿の目的は、高学歴化が進む中国の大学生を対象として、大学のキャリア教育や就労意識の動向を把握すること、さらに大学生の進路選択に及ぼす要因を明らかにすることである。そこで、中国6地域の大学生に対するWEB調査で得られたデータを基に、探索型アプローチによる実証分析を行った。

5 中国におけるキャリア教育の変遷に関して、高（2013）を参照。

2. 調査概要

本稿では、中国6地域の大学生⁶を対象に、2019年10月から12月にかけて、WEB調査⁷を実施した。WEB調査は、各大学の調査協力者からSNSでアンケート調査のリンクを調査対象者に送付し、リンク先のアンケートに回答させる方法で行った。得られた回答数は、464件である。

回答者の個人属性は、男性73名（15.7%）、女性391名（84.3%）で、学年⁸については、2年生166名（35.8%）、3年生143名（30.8%）、4年生155名（33.4%）である。

まず、調査対象学生の大学のキャリア教育に対する満足度は、表1のとおりである。キャリア教育の満足度は、それぞれ「とても満足」61件（13.2%）、「やや満足」202件（43.6%）、「ふつう」172件（37.1%）、「不満」27件（5.8%）、「とても不満」1件（0.2%）であった。

表1 キャリア教育の満足度

	とても満足	やや満足	ふつう	不満	とても不満	合計
件数	61	202	172	27	1	463
(割合)	(13.2%)	(43.6%)	(37.1%)	(5.8%)	(0.2%)	(100%)

注：無回答1件を除き、集計を行った。

割合は、合計（463件）で各項目を除いた値である。

参加経験のあるキャリア教育の項目を示したのが、表2である。この項目では、「キャリア教育課程⁹」324件（69.8%）や「経験座談会¹⁰」202件（58.6%）が多く挙げられている。また、「就職情報の提供」213件（45.9%）、

6 6地域の大学は、A大学（北京市）、B大学（上海市）、C大学（陝西省西安市）、D大学（天津市）、E大学（遼寧省大連市）、F大学（広東省広州市）である。

7 WEB調査は、九門（2019）と朴ら（2020）の調査項目を参考に作成し、「問卷網」を用いて行った。「問卷網」は、中国のインターネット調査プラットフォームである。

8 本調査では、大学2年生以上を対象としている。なお、中国の入学時期が9月であることから、調査対象から大学1年生を除外している。

9 キャリア教育課程は、就職指導や職業生涯プランの講義などの大学が設置するキャリア教育関連の講義である。

10 卒業生が自らの経験（就職活動や大学院進学など）を報告する講演会である。

「人生設計を考える講座¹¹」196件 (42.2%), 「求人先の紹介」170件 (36.6%), 「学生参加型講座¹²」157件 (33.8%) も比較的多くみられた。

これらのことから、大学のキャリア教育の満足度は、過半数以上が「満足 (やや満足を含む)」であることがみてとれ、4 割弱が「ふつう」であることが確認できた。キャリア教育については、大部分の大学生は肯定的に捉えられていることがわかった。また、中国における大学のキャリア教育では、情報提供の側面だけでなく、受動型と能動型の講座がともに行われていることが確認された。

表2 参加経験のあるキャリア教育の項目 (複数回答)

	件数	割合(%)
キャリア教育課程	324	(69.8%)
経験座談会	272	(58.6%)
就職情報の提供	213	(45.9%)
国内インターン機会の提供	118	(25.4%)
国外インターン機会の提供	55	(11.9%)
求人先の紹介	170	(36.6%)
自己理解を深めるための講座	118	(25.4%)
人生設計を考える講座	196	(42.2%)
社会人や卒業生との対話	122	(26.3%)
学生参加型講座	157	(33.8%)
その他	8	(1.7%)

注：複数回答に関して、当てはまる項目を全て選択する形式を採用した。

次に、キャリア教育の開始時期について表3に示した。キャリア教育の開始時期をみると、「大学3年」203件 (43.7%), 「大学1年」182件 (39.2%), 「大学4年」40件 (8.6%), 「大学2年」39件 (8.4%) であるが、キャリア教育の希望開始時期を尋ねた結果では、「大学1年」240件 (51.7%), 「大学3年」122件 (26.3%), 「大学2年」91件 (19.6%), 「大学4年」11件 (2.3%) とずれが見える。実際のキャリア教育の開始時期と希望開始時期の関係を見ると、実際の開始時期と希望開始時期が同じ時期であるという

11 キャリアプラン、性格分析、職業進路などを考える講座である。

12 様々な課題に対して、学生自らが参加する実践的な講座である。

回答は248件（53.4%）で、実際の開始時期よりも低学年での開始を希望すると回答したケースは、155件（33.4%）であった。

これらのことから、中国における大学のキャリア教育は、主に大学3年生と1年生から開始されているが、現状の学年が適当であると考えている回答者が過半数を占めている。しかし、過半数以上が希望開始時期を「大学1年」と回答し、回答者の9割強が大学3年までのキャリア教育の開始を希望していること、回答者の3割強は、キャリア教育の現状よりも低学年での実施を望む傾向にあることが確認された。

表3 キャリア教育の開始時期

		キャリア教育の開始時期(実際)					検定統計量
		大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	合計	
キャリア教育の 希望開始時期	大学1年	142 (30.6%)	15 (3.2%)	70 (15.1%)	13 (2.8%)	240 (51.7%)	$\chi^2=127.04$ df=9 p<.001 R=0.391
	大学2年	17 (3.7%)	17 (3.7%)	48 (10.3%)	9 (1.9%)	91 (19.6%)	
	大学3年	20 (4.3%)	7 (1.5%)	83 (17.9%)	12 (2.6%)	122 (26.3%)	
	大学4年	3 (0.6%)	0 (0.0%)	2 (0.4%)	6 (1.3%)	11 (2.3%)	
	合計	182 (39.2%)	39 (8.4%)	203 (43.7%)	40 (8.6%)	464 (100%)	

3. 就労意識と進路選択

本項では、中国における大学生の就労意識と進路選択の現状を検討する。まずは、就職先に期待する項目を表4に示した。なお、ここでは回答者が就職先に期待する事柄を3つ選択する形式（複数回答）を採用している。就職先に対する期待として、「成長できる仕事であること」が257件（55.4%）と最も多く、回答者の過半数を占めている。また、「給料が高いこと」167件（36.0%）、「海外勤務の機会」161件（34.7%）、「興味のある仕事内容」147件（31.7%）、「福利厚生充実」143件（30.8%）の4項目でも、比較的多くの回答者が期待する項目となっている。

このことから、就職先に対して、自己成長や興味のある仕事だけでなく、海外勤務の機会など自分自身のステップアップを期待している。また、高

賃金や福利厚生 of 充実などの待遇が重視されている。

表4 就職先に期待する項目（複数回答）

項目	件数	割合(%)	avg.	SD
海外勤務の機会	161	(34.7%)	0.347	0.4765
成長できる仕事であること	257	(55.4%)	0.554	0.4976
明確な昇進基準があること	107	(23.1%)	0.231	0.4217
充実した生活サポート	85	(18.3%)	0.183	0.3872
給料が高いこと	167	(36.0%)	0.360	0.4805
福利厚生 of 充実	143	(30.8%)	0.308	0.4622
社会貢献	27	(5.8%)	0.058	0.2344
仕事の安定性	67	(14.4%)	0.144	0.3519
興味のある仕事内容	147	(31.7%)	0.317	0.4657
残業が少ない・適度な休暇があること	69	(14.9%)	0.149	0.3562
良好な職場の対人関係	61	(13.1%)	0.132	0.3383
希望する勤務地	21	(4.5%)	0.045	0.2081
知名度が高い企業	13	(2.8%)	0.028	0.1652
豊富な研修機会の提供(外国語・専門能力等)	45	(9.7%)	0.097	0.2963
昇進スピード	3	(0.6%)	0.065	0.0802
勤務評価の公平性	16	(3.4%)	0.035	0.1827
その他	2	(0.4%)	0.004	0.0658

注：複数回答に関して、当てはまる項目を3つ選ぶ形式を採用した。

次に、職業選択に及ぼす要因は、表5のとおりである。なお、職業選択に及ぼす影響が大きい順に、第1位から第3位までの順位を付ける回答形式（順位付け回答）を採用した。集計結果から、第1位には、「自分の興味」307件（66.2%）と「社会的ニーズ」102件（22.0%）が上位を占めた。第2位では、「社会的ニーズ」196件（42.2%）や「自分の興味」104件（22.4%）が上位となっている。第3位では、「両親の意見」150件（32.3%）や「教師の意見」86件（18.5%）、「ステータス」84件（18.1%）、「社会的ニーズ」81件（17.5%）などが上位に入ることが確認された。

また、単純集計では、「自分の興味」（95.5%）や「社会的ニーズ」（81.7%）という回答が多い。また、「両親の意見」（57.8%）も比較的多く、3割弱の回答者には「ステータス」（28.7%）や「教師の意見」（26.7%）といった要因も挙げられている。

表5 職業選択に及ぼす要因（順位付け回答）

	第1位	第2位	第3位	合計
両親の意見	41 (8.8%)	77 (16.6%)	150 (32.3%)	268 (57.8%)
自分の興味	307 (66.2%)	104 (22.4%)	32 (6.9%)	443 (95.5%)
友人の意見	3 (0.6%)	11 (2.4%)	31 (6.7%)	45 (9.7%)
教師の意見	5 (1.1%)	33 (7.1%)	86 (18.5%)	124 (26.7%)
ステータス	6 (1.3%)	43 (9.3%)	84 (18.1%)	133 (28.7%)
社会的ニーズ	102 (22.0%)	196 (42.2%)	81 (17.5%)	379 (81.7%)

注：1）合計は、順位付けられた項目を単純集計した値である。

2）各割合は、合計（464件）で除している。

中国における大学生の進路選択について、表6に示した。本調査では、希望する進路選択を、就職、起業、進学の3つとした。そして、それぞれの選択肢には、中国（国内）と外国を区別し、中国（国内）での就職と選択した場合には、希望就職先も尋ねた。

それぞれの希望する進路選択としては、「進学」242件（52.5%）と「就職」215件（46.6%）に分かれている。進学の内訳は、「中国（国内）」147件（31.9%）であり、「外国」95件（20.6%）であった。また、中国（国内）の就職では、「外資企業」120件（26.0%）が多くみられた。加えて、外国（進学と就職を含む）を希望する回答者は、3割弱になっていることも確認された。

これらのことから、職業選択には自分の興味や社会的ニーズといった要因が強く影響するとともに、両親や教師の意見だけでなく、ステータスの影響も確認された。進路選択では、進学と就職が同水準であった。進学では、中国（国内）を希望する学生が多いものの、外国を希望する学生も比較的多いことがわかった。就職では、国有企業や公務員よりも外資企業を希望する傾向が高いことが確認された。

表6 大学生の進路選択

項目		件数	割合(%)
就職	中国(国内)	外資企業	120 (26.0%)
		国有企業	35 (7.6%)
		公務員	23 (5.0%)
	外国	37 (8.0%)	
起業	中国(国内)	4 (0.9%)	
	外国	0 (0.0%)	
進学	中国(国内)	147 (31.9%)	
	外国	95 (20.6%)	
合計		461	(100%)

注：無回答3件を除き，集計を行った。

4. 分析方法とデータ

本稿では，大学生の進路選択に及ぼす要因を明らかにするため，WEB調査で得たデータを用いて，探索型アプローチによる実証分析を行なう。なお，分析における変数と定義は，表7のとおりである。

潜在変数として，中国（国内）や外国に関係なく，「就職希望」である場合には1，「進学希望」には0とした¹³。独立変数は，個人属性の性別と学年に加え，キャリア教育要因（キャリア教育の満足度と参加経験のあるキャリア教育の10項目），職業選択に及ぼす要因（6項目），就職先に期待する要因(16項目)とした。それぞれの変数について，性別は「女性」を1，「男性」を0とした。学年は「2年」を1，「3年」を2，「4年」を3とした。

キャリア教育要因に関して，キャリア教育の満足度は，「とても満足」を5，「やや満足」を4，「ふつう」を3，「不満」を2，「とても不満」を1とした。次に，参加経験のあるキャリア教育は，10項目（キャリア教育課程，経験座談会，就職情報の提供，国内インターン機会の提供，国外インターン機会の提供，求人先の紹介，自己理解を深めるための講座，人生設計を考える講座，社会人や卒業生との対話，学生参加型講座）について，それぞれ「参加経験あり」を1，「なし」を0とした。

13 サンプル数が少なく，統計的に説明することが困難なことから，起業希望（サンプル数：4）は除外した。

職業選択に及ぼす要因として、6項目（両親の意見、自分の興味、友人の意見、教師の意見、ステータス、社会的ニーズ）では、「最も影響する」を1、「その他」は0とした¹⁴。

表7 分析に用いた変数

	変数	定義
潜在変数	進路選択	就職希望=1 進学希望=0
	性別	女性=1, 男性=0
独立変数	学年	2年=1, 3年=2, 4年=3
	キャリア教育の満足度	とても満足=5, やや満足=4, ふつう=3, 不満=2, とても不満=1
	キャリア教育課程	参加経験あり=1, なし=0
	経験座談会	参加経験あり=1, なし=0
	就職情報の提供	参加経験あり=1, なし=0
	国内インターン機会の提供	参加経験あり=1, なし=0
	国外インターン機会の提供	参加経験あり=1, なし=0
	求人先の紹介	参加経験あり=1, なし=0
	自己理解を深めるための講座	参加経験あり=1, なし=0
	人生設計を考える講座	参加経験あり=1, なし=0
	社会人や卒業生との対話	参加経験あり=1, なし=0
	学生参加型講座	参加経験あり=1, なし=0
	両親の意見	最も影響する=1, その他=0
	自分の興味	最も影響する=1, その他=0
	友人の意見	最も影響する=1, その他=0
	教師の意見	最も影響する=1, その他=0
	ステータス	最も影響する=1, その他=0
	社会的ニーズ	最も影響する=1, その他=0
	海外勤務の機会	期待する=1, その他=0
	成長できる仕事であること	期待する=1, その他=0
	明確な昇進基準があること	期待する=1, その他=0
	充実した生活サポート	期待する=1, その他=0
	給料が高いこと	期待する=1, その他=0
	福利厚生が充実	期待する=1, その他=0
	社会貢献	期待する=1, その他=0
	仕事の安定性	期待する=1, その他=0
	興味のある仕事内容	期待する=1, その他=0
	残業が少ない・適度な休暇があること	期待する=1, その他=0
	良好な職場の対人関係	期待する=1, その他=0
	希望する勤務地	期待する=1, その他=0
知名度が高い企業	期待する=1, その他=0	
豊富な研修機会の提供	期待する=1, その他=0	
昇進スピード	期待する=1, その他=0	
勤務評価の公平性	期待する=1, その他=0	

14 職業選択に及ぼす要因について、順位付け回答で第1位の項目のみを「最も影響する」として扱い、それ以外の項目は「その他」としている。

就職先に期待する要因に関して、16項目（海外勤務の機会、成長できる仕事であること、明確な昇進基準があること、充実した生活サポート、給料が高いこと、福利厚生の充実、社会貢献、仕事の安定性、興味のある仕事内容、残業が少ない・適度な休暇があること、良好な職場の対人関係、希望する勤務地、知名度が高い企業、豊富な研修機会の提供（外国語・専門能力）、昇進スピード、勤務評価の公平性）においては、「期待する」と回答すれば1を、その他を0とした。なお、潜在変数が2項変数であることから、ロジット・モデルを用いて分析を行なった。

5. 分析結果

分析に用いたサンプル数は457である。モデルの推定には、統計パッケージR（version 4.0.0）を用いた。なお、分析結果は、表8のとおりである。

計測は、変数減少法を用いて、1以下のz値が表れないようになるまで変数を減らした。推定モデルの適合性を示す擬似R²は、0.062であり、Accuracyは61.1%であった。

分析結果をみると、パラメータに関して、「仕事の安定性」と「明確な昇進基準があること」は正值であり、1%で統計的に有意であった。また、「就職情報の提供」と「福利厚生の充実」は正值で、5%で統計的に有意であった。一方で、「学年」は負値であり、5%で統計的に有意であった。加えて、「海外勤務の機会」、「充実した生活サポート」、「給料が高いこと」は正值で、統計的に10%で有意であった。

これらのことから、大学生の進路選択において、就職先に仕事の安定性や明確な昇進基準を期待する学生ほど就職を希望する傾向が強くなり、福利厚生の充実を期待するのも就職の選択にプラスの影響を及ぼすことがわかった。また、学生への就職情報の提供が、就職を選択することに繋がっていることが統計的にもみとれる。一方で、学年が高くなるにつれて、学生が進学を希望する傾向が強くなることが確認された。

表8 分析結果

変数	係数	z値
学年	-0.361 **	-2.786
就職情報の提供	0.513 **	2.202
国内インターン機会の提供	-0.428	-1.570
社会人や卒業生との対話	-0.353	-1.434
海外勤務の機会	0.419 *	1.759
明確な昇進基準があること	0.834 ***	3.297
充実した生活サポート	0.480 *	1.768
給料が高いこと	0.415 *	1.881
福利厚生充実	0.476 **	2.078
社会貢献	0.610	1.373
仕事の安定性	0.945 ***	3.132
希望する勤務地	0.447	1.404
定数	-0.035	-0.074
擬似R ²	0.062	
尤度比	38.88 ***	
AIC	619.06	
Accuracy	0.611	

注：1) ***, **, *は、それぞれ1%, 5%, 10%で有意であることを示す。

2) 変数減少法を用いて、1以下のz値が表れないようになるまで変数を減らした。

6. 結論

本稿の目的は、中国の大学で行われているキャリア教育や就労意識の動向を把握し、さらに大学生の進路選択に及ぼす要因を明らかにすることであった。得られた知見は、以下のとおりである。

アンケート調査の集計結果から、中国における大学のキャリア教育では、受動型と能動型の講座が行われていることがわかった。こうしたキャリア教育について、大部分の大学生は肯定的に捉えていることが確認された。また、キャリア教育の開始時期は、大学3年生から開始されるケースが最多であるものの、過半数以上の学生は大学1年からのキャリア教育の開始を希望しており、現状よりも早期の実施を望んでいることがみてとれた。

次に、就職先には、自己成長ができることや興味のある仕事であることを重視するだけでなく、海外勤務の機会など自分自身のステップアップに

繋がる職場環境を期待していることが示された。また、高賃金や福利厚生
の充実などの待遇も重視されている。

職業選択には、自分の興味や社会的ニーズといった要因が強く影響する
ことがわかった。両親や教師の意見だけでなく、職種のステータスも比較
的強い影響を及ぼしている。また、進路選択では、進学と就職を選択した
学生は同水準であった。進学では、中国（国内）の大学院への進学希望が
顕著であり、外国の大学院への進学希望も比較的多くみられる。一方で、
就職先では、国有企業や公務員よりも外資企業を希望する傾向が高いこと
が確認された。

進路選択の分析結果からは、就職先に仕事の安定性や明確な昇進基準を
期待する学生ほど就職を希望する傾向が強いことがわかった。また、福利
厚生を充実を期待する学生も就職志向性が強い。加えて、大学のキャリア
教育の影響をみると、就職情報の提供が就職を選択することに繋がること
が確認された。一方で、学年が上がるにつれて、進学を希望することがみ
てとれた。

最後に、中国のキャリア教育を対象とした研究は未だ限定的であり、多
くの課題が残されている。そこで、本稿では、探索型アプローチを基に、
大学生の進路選択とキャリア教育の関係性を数量化した。しかしながら、
個人属性などの質的データを加えておらず、より詳細な解析が必要である。
こうしたことを踏まえ、質的データの収集ならびに現地事情の把握を今後
の課題として、他稿に譲りたい。

[参考文献]

- 井上恵 (2016) 「在日日系中国人留学生の就業動機と就職不安の関連」『人文科学研究』,
No.12, pp.217-229.
- 韓冀娜 (2016) 「中国における大学院への進学意識－学術学位と専門職学位の比較－」『早
稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊』, 第23巻, 第2号, pp.1-12.
- 九門大士 (2019) 「中国人大学生のキャリア意識と中国の大学に求められるキャリア教
育－大連外国語大学との日中共同アンケート調査の分析－」『Journal of the Institute
for Asian Studies』, 第46号, pp.53-77.
- 黒木利作 (2011) 「日本人学生と中国人留学生の就職に対する意識の相違－福祉系大学

- 生への就職意識調査をもとに－』『近畿医療福祉大学紀要』, Vol.12, No.1, pp.141-146.
- 岳昌君・文东茅・丁小浩 (2004) 「从求职和起薪看高校毕业生的就业竞争力－基于调查数据的实证分析」『北大教育经济研究 (电子季刊)』, 第2卷, 第2期, pp.1-18.
- 顾黎明 (2017) 「外语类高校大学生职业生涯规划倾向分析及引导策略」『北京印刷学院学报』, 第25卷, 第4期, pp.163-165.
- 高静 (2011) 「中国における大学生の就職意識」『広島大学大学院教育学研究科紀要』, 第三部, 第60号, pp.73-82.
- 高静 (2013) 「中国の大学における職業生涯教育の拡大とその課題－山東省3大学を事例に－」『広島大学大学院教育学研究科紀要』, 第三部, 第62号, pp.59-68.
- 黄雪娜 (2012) 「当代大学生职业价值观质性探讨」『科技成果纵横』, 第5期, pp.44-49.
- 黄雪娜・金盛华・张爽 (2014) 「当代大学生职业价值观定量分析与对策研究」『辽宁大学学报 (哲学社会科学版)』, 第42卷, 第4期, pp.186-192.
- 徐垂文・来島浩 (2006) 「中国における新規大学卒業者の就職難の実態－山東省の事例を中心に－」『山口大学教育学部研究論叢』, 第56巻, 第1号, pp.77-106.
- 蔣純青 (2017) 『中国の高学歴化と大卒者就職の諸相』, 専修大学出版局.
- 張任 (2015) 「中国における大学のキャリア教育の展開に関する考察－質素教育の補助と延長という視点から－」『東アジア研究』, No.13, pp.45-73.
- 福澤勝彦・王晓丹 (2015) 「中国大学生の就職意識と職探し行動－日中の比較」『熊本学園大学経済論集』, 第22巻, 第1-2合併号, pp.65-92.
- 朴慧淑・九門大士・于飛 (2020) 「中国の大学における就職支援・キャリア教育のとらえ方について－大連外国語大学の学生意識調査を中心に－」『アジア研究所・アジア研究シリーズ』, No.105, pp.53-70.
- 凤四海・罗小涛 (2012) 「当代中国大学生职业价值观调查与分析」『西南民族大学学报 (人文社会科学版)』, 第10期, pp.218-220.
- 杨俊・付文・奂婷婷・鲜耀 (2017) 「以职业生涯规划为载体的外语专业大学生理想信念教育研究」『四川文理学院学报』, 第27巻, 第3期, pp.140-143.
- 李敏 (2006) 「中国の大卒者進路選択及び就職に関する階層差の実証研究－上海を事例として－」『教育社会学研究』, 第78巻, pp.257-278.
- 李敏 (2011) 「中国の高等教育大衆化と大卒者の就職活動－1999年と2004年における上海市の大卒者就職調査の比較－」『大学論集』, 第42号, pp.89-105.

[参考ウェブサイト]

国家统计局HP / 中国统计年鉴2019

(<http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/2019/indexch.htm>)

最終閲覧日：2020年8月8日